

2026 年度 一般選抜Ⅱ期(2/21) 国語 出題意図

大問一 出題意図（問題一全体）

問題文は、「社会」という概念の成り立ちと、それを人間がいかに主体的に構築しているか（社会力）について論じたものである。社会が人間から独立した実体であるという思い込みを退け、日常の相互行為の蓄積であると定義する。その上で、既存の社会に適応する「社会性」と、新たな社会を構想し変革する「社会力」の違いを明確にし、次世代に求められる資質を問う論考を正確に理解する力が求められる。

出題意図（個別問題）

問一：文脈に応じた適切な熟語（便宜、暫定、端的、構想）を選択する語彙力を問うた。

問二：接続詞。話題の補足（なお）や換言（すなわち）など、論理展開を示す語句を補う力を問うた。

問三：論旨の把握。「しっかり頭に入れてほしい」内容とは逆の、社会の成り立ちに関する誤った認識（社会が人間と離れて存在する実体だという認識）を見抜く力を問うた。

問四：指示語の理解。「こういうイメージ」が、直前で述べられた心理学的な「社会への適応性」を指していることを正確に特定する力を問うた。

問五：対比構造の把握。「社会性」が既存の社会の「維持」を志向するのに対し、「社会力」が「革新（変革）」を志向するという筆者の独自の対比を文脈から読み取る力を問うた。

問六：記述問題。「社会力を欠く」ことの弊害について、主体的に社会を構想し、運営し、改革していく能力が失われるという文脈に即して記述する力を求めた。

問七：内容不一致。本文で述べられた「社会性」と「社会力」の定義や筆者の主張と矛盾する選択肢を識別する読解力を問うた。

大問二 出題意図（問題二全体）

問題文は、植物が生存のために獲得した抗菌物質の働きと、植物と病原菌の攻防を論じた文章である。カテキン等の成分が人間を利するために存在するのではなく、病原菌が発する「エリシター」を感知し防御態勢をとるための巧妙な生存戦略であることを、平易な比喻を通じて解説している。生物学的なメカニズムと因果関係を論理的に把握する力を問うた。

出題意図（個別問題）

問一：慣用句の意味。「枚挙にいとまがない」が、数え切れないほど多数存在することを意味すると理解しているかを問うた。

問二：文脈に応じた適切な漢字（生薬、壮絶、察知、破壊）を選択する表記能力を問うた。

問三：接続詞。常識への疑問を提示する際の逆接・転換（しかし／ところで等）を補う力を問うた。

問四：修飾関係の理解。「わざわざ」が、病原菌が自らの不利益となる行動（自らの存在

を知らせること)をとるはずがないという箇所にかかっていることを識別する力を問うた。

問五：指示内容の把握。「このように」が指し示す、植物が異常を感知して防衛態勢をとるプロセスの具体例（細胞壁の破壊など）として不適切なものを排除する力を問うた。

問六：表現の工夫。読者の興味を引くための比喩や擬人化、平易な具体例の提示といった筆者の意図的表現を客観的に評価する力を問うた。

大問三 出題意図（問題三全体）

論理的思考の基盤となる対義語の理解と、故事成語の知識を問う問題である。

出題意図（個別問題）

問一：頻出する概念（混乱⇔秩序、帰納⇔演繹、充実⇔空虚、一般⇔特殊、解放⇔束縛）の対立関係を正確に理解し、語彙を組み合わせる力を問うた。

問二：故事成語（百聞は一見に如かず、蛇足、朝三暮四、馬耳東風、白眉）の背景にある教訓的意味を理解し、適切な場面状況と結びつける知識を問うた。